

I 主題設定の理由

《学校教育目標から》

「ふるさとを愛し、やさしさ かしこさ
たくましさ あふれる児童の育成」



めざす児童像

「やさしく・かしこく・たくましく」



学校教育目標の具現化

《研究の経緯から》

平成23・24年度

教え合い学び合いの中で主体的に学ぶ児童の育成

～基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る学習
指導のあり方をおして～

- ・学習内容の定着のために、「教えて考えさせる
授業」を中心にした指導過程の研究実践
- ・生活習慣の見直し・学習環境の整備
- ・聴く態度を中心にした学習規律



さらに主体的に学ぶ力を育てたい

《時代の要請から》

学習指導要領 学力の3要素の育成

- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に
習得
- 課題を解決するために必要な思考力・判
断力・表現力その他の能力の育成
- 主体的に学習に取り組む態度



学力の向上・学び方の習得

《児童の実態から》

- ・学力に個人差がある。
- ・粘り強く問題を解決しようとする児童の
割合が低い。
- ・家庭学習の習慣や学習スキルの定着に個
人差がある。



系統性をしっかりと踏まえ、見通しをもっ
て学習に臨む力を身に付けさせたい

わかる喜びを味わい、主体的に学ぶ児童の育成
「見通し」を意識した学習指導をおして

「わかる喜びを味わう」とは

問題解決に至るまでの過程あるいは問題が解決したあとに得られる、達成感や満足感、気づき、納得感などのことと捉える。

そのためには、以下のような点を中心に研究する。

- 「基礎的・基本的な知識・技能」を確実に身に付けることや、既習した「知識・技能」を活用できるようにすること。

※基礎的・基本的な知識・技能に関しては、学習指導要領解説算数編に記載されている内容を示す。

- わかるための自力解決や練り合いの場を大切にすること。

- ねらいを達成するための算数的活動、特に思考力・判断力・表現力等を育成するための言語活動の充実を大切にすること。

「主体的に学ぶ児童」とは

自ら得た知識・技能を活用して「問題解決能力」を伸ばしていくことができる児童を意味する。つまり、課題を解決するために自分なりの考えをもつことができる児童と捉える。

主体的に学び、わかる喜びを味わうためには、児童に見通しをもたせることが大切であると
考え、副主題に～「見通し」を意識した学習指導をおして～と設定した。

「見通し」を意識した学習指導とは

指導する単元及び1単位時間の目標を教師側がしっかりと捉え、既習学習をいかに想起させ、自力解決につないでいくのか、もしくは、児童とともに問題の解決を図り、児童がどのように深化・活用問題に取り組んでいくのか、内容によって見通しのもとせ方を変えることで、学習内容の理解、定着を図っていく。したがって、見通しのもとせ方に
応じて「問題解決型学習」か「教えて考えさせる学習」かを選択して仕組むことになる。

見通しをもつことができた児童は、「わかる喜び」を味わうことができ、さらには、知識・技能を活用しながら問題を解決していくことで思考力・判断力・表現力等を育成し、「主体的に学ぶ力」も育成できると考える。